

掲載内容

新製品情報

Chamlide シリーズに Piezo Z ステージ用チャンバ(Chamlide TC)登場しました。

デモ機情報

当社デモ機に浜松ホトニクス ImagEM と ORCA-AG が加わりました。

MM-ICS カタログが用意されました

コンフォーカルユニットを含む新たなシステム MM-ICS のカタログができました。

価格表情報

Phtonic Instruments 社製 MicroPoint および Mosaic 制御ドライバについて、40158 は Mosaic 制御のみ、40168 は MicroPoint 制御のみになります。

技術情報

Version 7.1.3 より Olympus IX81, BX51 で使用の U-HSTR2 ハンドスイッチにジャーナル機能割り当てが可能になりました。

AutoQuant X2.0 のインストール時に PC アカウント名が日本語フォントの場合エラーが表示されます。必ず英語フォント(半角)を使用したアカウント名を使用してください。

横河電機製 CSU21, CSU22 を Meta Imaging Series で制御しているシステムの ID を当社までお知らせください。

ジャーナル紹介

多点タイムラプス(t, λ , P, z)において、Z 軸スキャンで Current Position を Top とし、指定レンジで下方向のエリアのみスキャンを行うジャーナル

ScanSlide にて一定間隔でオートフォーカスを起動させるジャーナル

1) 新製品情報

Chamilide シリーズに Piezo Z ステージ用インキュベータシステム(**Chamilide TC**)が登場しました。ピエゾ Z モータ上にインキュベータを置き、さらにその上にマグネチックチャンバ(35mm ディッシュ)を置いて使用します。加湿器そのものにヒータ(センサ)が取り付けられ、より高精度な温度管理ができるようになります。

温度制御範囲: 周辺温度+3°C~ 45°C

推奨流量(5% CO₂): 50ml/min.

寸法: 127.5mm (W) x 85.5 (D) x 23 (H)

加熱方法: ヒータ組み込み式ガラスカバー

材質: アルミニウム



ピエゾ対応 ChamilideTC



インキュベータ



各種 Magnetic Chamber



使用例

その他としまして、**Chamilide WP** に市販のガラスボトムディッシュを6コまで実装できるアダプタが用意されました。

2) デモ機情報

当社デモ機として新たに浜松ホトニクス **ImagEM** と **ORCA-AG** が加わりました。デモでご使用になりたい方は是非ご用命ください。今まで以上に早い対応が可能になります。

※ORCA-AG は 10 月後半よりの用意になります。



3) MM-ICS カタログが用意されました

コンフォーカルユニットを含む新たなシステム高速・高感度共焦点顕微鏡システム **MM-ICS** のカタログができました。ご用命ください。

Live Cell Imaging Solutions
Powered by MetaMorph

2D Array Confocal Scanning
Real-time confocal imaging
Variable speed scan
UV to near IR
Fast image capture (up to 1000fps)
Integrated dichroic changer
Fully self aligned system
User swappable between scanning and imaging
Perfect Camera synchronization
Elimination of frame-to-frame variations

マルチカラー対応
高速・高感度共焦点顕微鏡システム

2D Array Scanning Laser Confocal Microscope

MM-ICS

AOTF
Selectable Pinhole



Live Cell Imaging Solutions

Powered by MetaMorph



4) 価格表情報

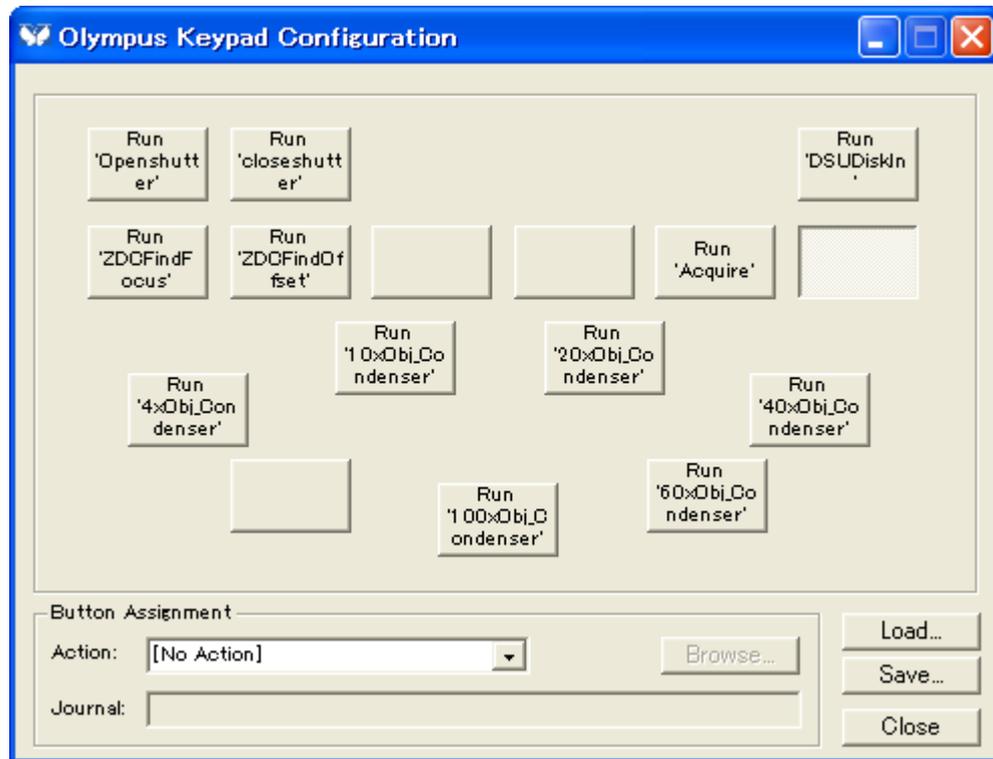
すでに Sales Note FY0705 でお知らせしてあるように Phonic Instruments 社製 **MicroPoint** および **Mosaic** 制御ドライバについてですが、10 月 1 日以降は 40158 は Mosaic 制御のみ、40168 は MicroPoint 制御のみとなります。40158, 40168 とともに MetaMorph Basic または、MetaMorph Premier 用のオプションになります。(MetaMorph Premier でもオプションになります。)

※MetaVue, MetaFluor には追加できません。

5) 技術情報 1

Meta Imaging Series 7.1.3 に Olympus KeyPad Configuration 機能が追加されました

Meta Imaging Series 7.1.3 より、オリンパス製 IX81, BX61 用のハンドスイッチ U-HSTR2 の各ボタンにジャーナル機能を割り当てることができます。画像取得、ライブ表示開始、ライブ表示停止、Ludl 製および Vincent 製シャッターの開閉、ZDC_On/Off、DSU_Disc In などに利用できます。また、ジャーナルを使用することにより、ハンドスイッチから対物レンズとコンデンサを同時に動かすこともできるようになります。



6) 技術情報 2

AutoQuant X2 のインストール時の注意点について

新しくリリースされました AutoQuant X2 をインストールする際に注意していただきたいことがあります。Windows XP でログインする際に使用するアカウント名に日本語を使用している場合、インストール時にエラーが表示されインストールが完了できません。

必ず、半角アルファベットおよび数字のみを使用したアカウント名で行ってください。

日本語を使用しているアカウントしか存在しない場合は、新たにアカウントを作成してください。なお、権限はアドミニストレータにしてください。

Meta Imaging Series 7.1 につきましても、すでに報告してありますように AutoQuant X2 同様に日本語を使用しているアカウントではインストールを行うことができません。必ず半角アルファベットおよび数字のみを使用したアカウントで行ってください。

7) 技術情報 3

横河電機製 CSU21, CSU22 を Meta Imaging Series で制御しているシステムの Meta Imaging Series System ID を当社までお知らせください。

今後 MetaMorph など Meta Imaging Series で CSU21, CSU22 を制御する場合にキービットというものが必要になります。ご使用の ID (ドングルキーに記載されている ID) にキービットを追加する必要がありますので、CSU21, CSU22 と一緒に MetaMorph など Meta Imaging Series を使用しているユーザの Meta Imaging Series System ID を当社までお知らせください。よろしくお願いたします。

8) ジャーナル紹介 1

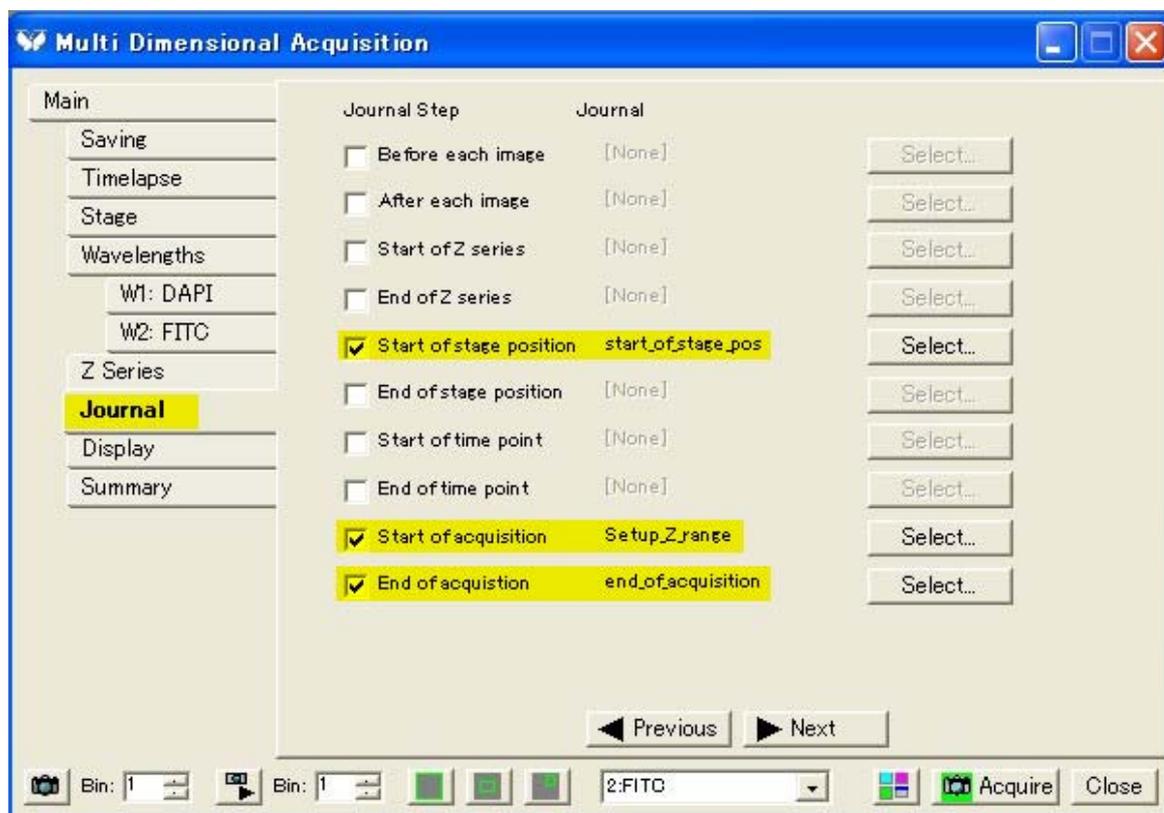
多点タイムラプス(t、λ、P、z)において、Z軸スキャンで Current Position を Top とし、指定レンジで下方向のエリアのみスキャンを行う Journal について

本ジャーナルは 3 つの Journal ファイル (start_of_stage_pos.JNL、Setup_Z_range.JNL、end_of_acquisition.JNL) で構成され、Multi Dimesional Acquisition 中で動作させます。

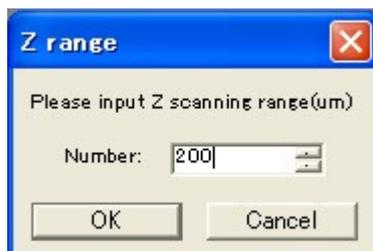
Z シリーズを Current Position で行いますが、通常と異なり Z シリーズの開始を Top から行うことができます。手動フォーカス等で設定させた位置から上下ではなく、一方の方向に Z スキャンを行いたい場合に使用できると思います。

※本ジャーナルはオリンパス社製 ZDC との併用はできません。

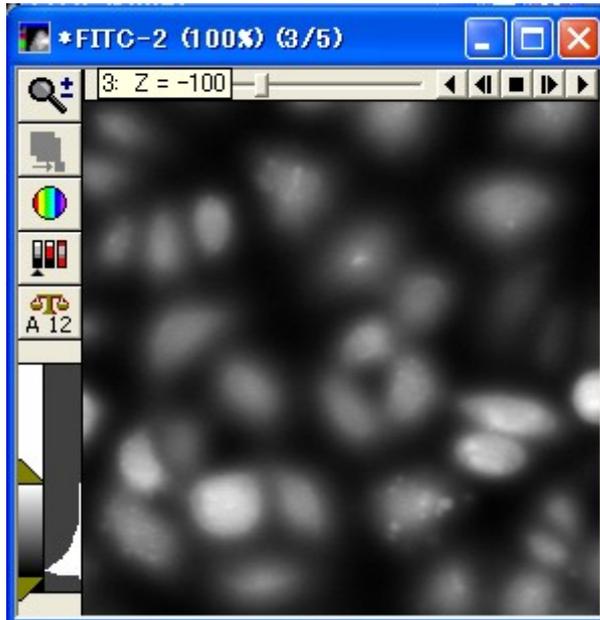
- ① Multi Dimensional Acquisition を起動し、Main のタブより、Run Journal にチェックを入れ、Journal のタブを表示させます。



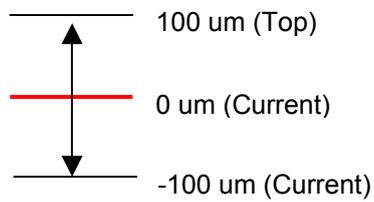
- ② Multi Dimensional Acquisition において、各次元での撮影設定を行います。Z シリーズでは Range Around Current にチェックを入れてください。
- ③ 設定が完了しましたら、Acquire ボタンを押して画像取得を開始します。Acquire ボタンをクリックした後に、下記ウィンドウが表示されますので、設定した Z 軸スキャンレンジを入力してください。OK をクリックすると画像取得が開始されます。



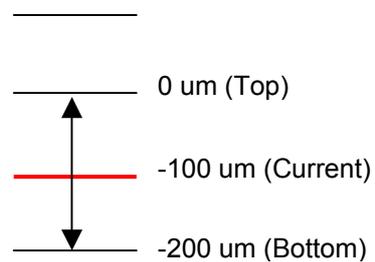
- ④ 撮影後、画像からZの位置を確認できます。Current Position を Top として設定レンジで下方向エリアを撮影した画像である事が確認できます。



※本ジャーナルを用いた場合のZシリーズ動作は下記のようにになります。



Journal 非使用



Journal 使用

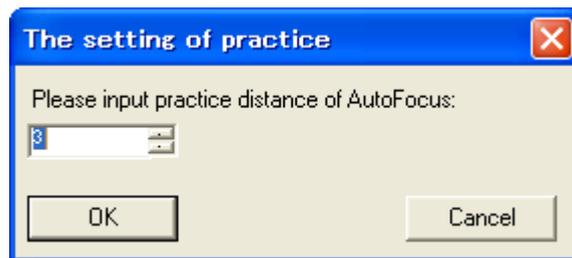
ジャーナル紹介 2

ScanSlide にて一定間隔でオートフォーカスを起動させる Journal

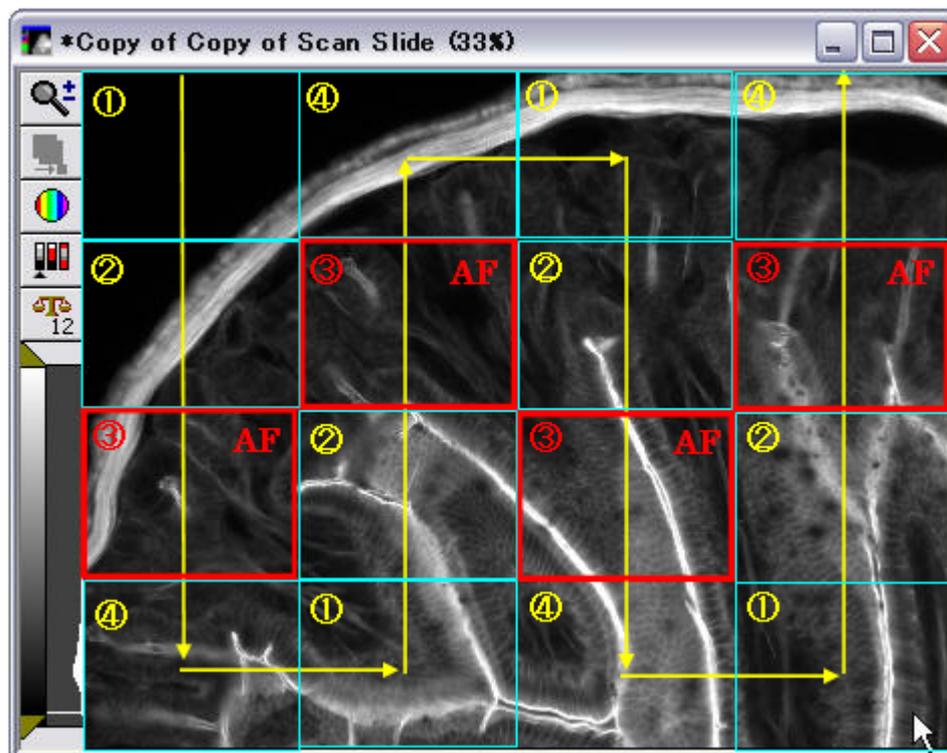
御好評頂いている MetaMorph のオプション機能である ScanSlide ですが、Scan 中、オートフォーカスを各ステージポジションで起動させる事が出来る事は御存知かと思われます。ただし、現在の機能ではオートフォーカスはオフか全ステージポジションで動作させるかの 2 通りの選択のみとなっており、スキャンエリアが広範囲に及ぶ場合は撮影に時間がかかります。

本ジャーナルでは、この問題を解消し、一定の撮影間隔でオートフォーカスを動作させながら Scan Slide 画像取得を行うことができます。

本 Journal を用いる事で定期的にオートフォーカスを起動させる事が出来る為、フォーカスを維持しつつ、Scan 時間を短縮する事が可能です。



Journal を起動しますと、オートフォーカス起動間隔の数値入力を行います。
左図のように「3」と入力しますと、下図の様に Scan の y 軸方向に向かって 3 回目のステージポジションでの撮影時にオートフォーカスが起動します。



ScanSlide は上図の様にジグザグ方向に撮影を行っていきます(矢印がスキャン方向)

オートフォーカスはソフトウェアオートフォーカスのみならず、オリンパス社製レーザーオートフォーカスユニット”ZDC”を用いる事も可能です。

※Journal 応用例

上記 Journal は「入力したタイムポイントに対して、あるアクションを起こす」という Journal になります。この Journal を少し改造する事で、一定のタイムポイントごとに露光時間を指定数値分延長するなどといった機能を働かせる事も可能です。

以上